

# 水産業・漁村の多面的機能発現に向けた 漁港施設の活用方策の検討

水産土木工学部

## 研究の背景・目的

今日、漁港施設は多様化するニーズへの対応や水産業・漁村の多面的機能発現に向けた適切な利活用の促進と機能性の維持・向上が求められている。そこで、水産業・漁村の多面的機能に対して、漁港施設が担っている(または担うべき)役割について具体的に整理することにより、多面的機能の発現、増進に向けた漁港施設の活用方策について検討した。

## 研究成果

1. 漁港施設が担っている(または担うべき)役割として、①施設の存在自体が機能を発揮する場合、②施設が活動の場等として直接的に利用されることにより機能が発揮される場合、③施設が地域の水産業振興や漁村の維持等に一定の役割を果たして間接的に多面的機能の維持・増進に寄与している場合、に区分できる。
2. 漁港施設が多面的機能発現に向けて担う役割はとして、以下のような事項があげられる。
  - 「国民の生命財産保全」として、施設の存在自体による津波・高潮等の威力減殺効果や自然災害等、緊急時の避難及び物資運搬等の防災拠点
  - 「自然環境保全」として、藻場の形成や生物の生息場と付加的な水質改善効果
  - 「居住や交流の場の提供」として、遊漁や漁業体験等、保養・交流・学習の場
  - 「地域社会の形成・維持」として、施設自体の多面的な利用を通じた新たな産業の創出

## 波及効果

漁港施設が担う多面的機能は多岐にわたり、すでに一定の役割を果たしていることが確認された。漁港施設が担う多面的機能が明確になることにより、漁港施設が担う多面的機能の発揮・増進のための課題及び、課題への対応方向について、より具体的な検討が可能になる。

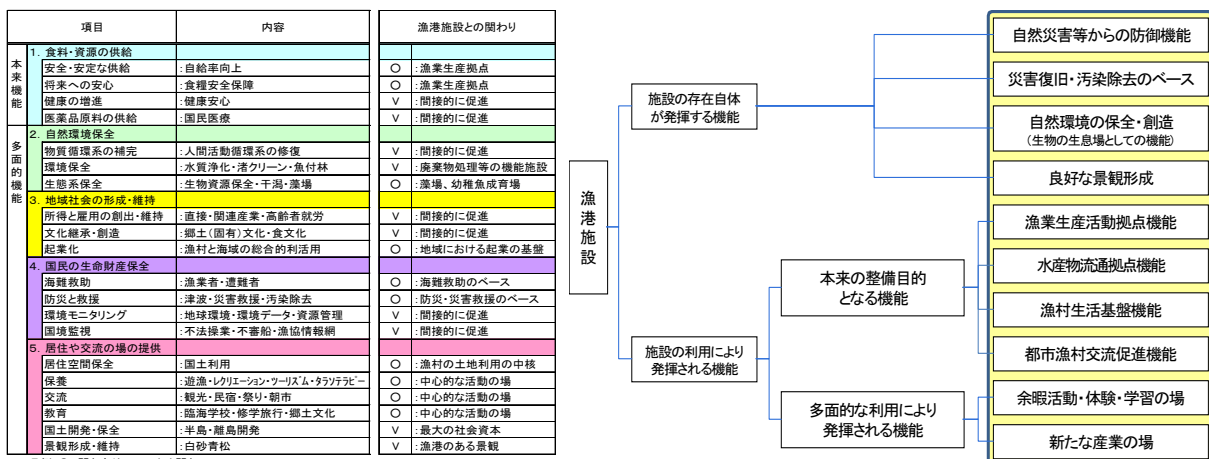


図 漁港施設の機能と多面的機能の関わり

(地域基盤研究チーム: 三上信雄・佐伯公康)